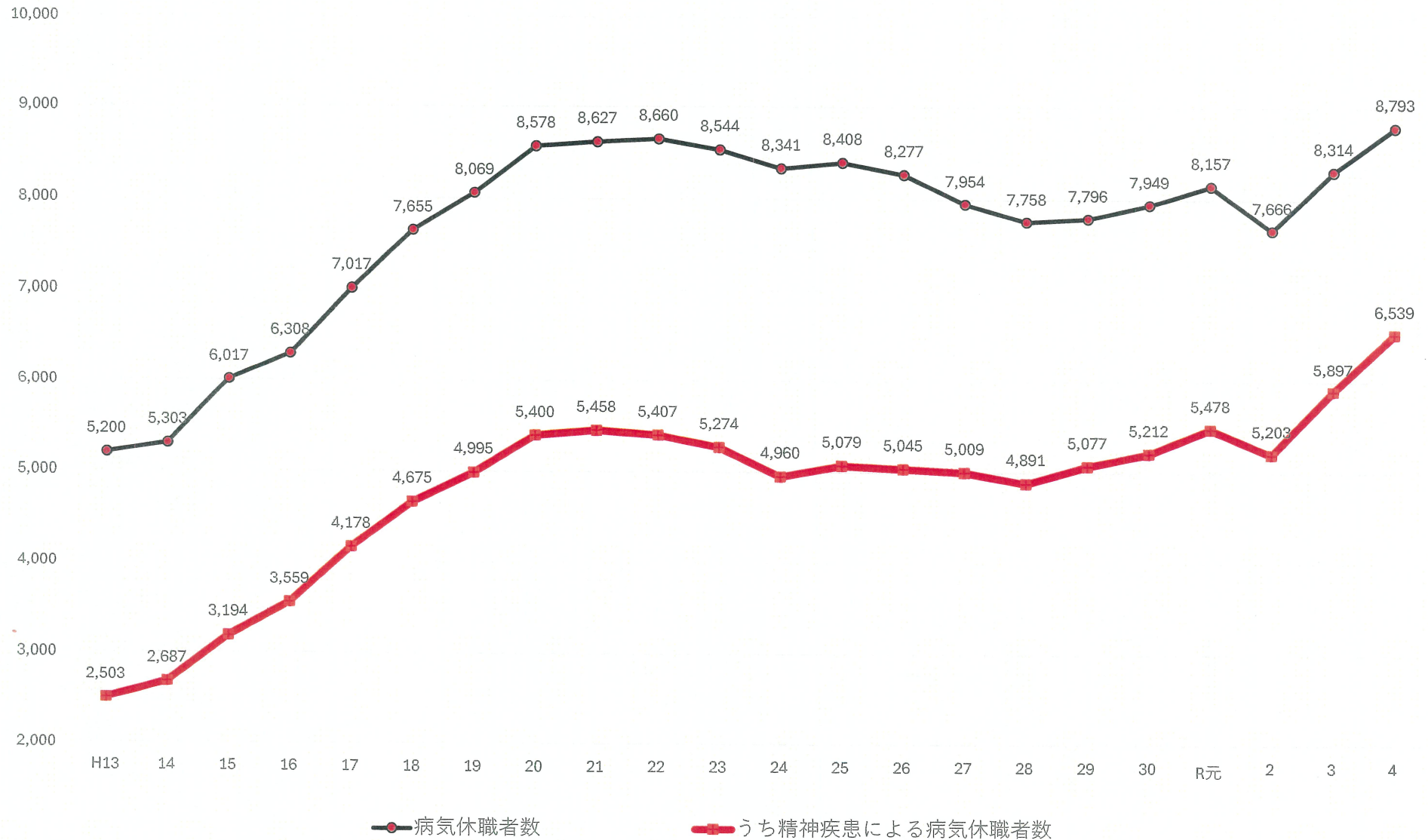


教職員の病気休職者数の推移



過酷勤務 鮮明に

休憩時間ゼロ 教員の半数 過労死ライン超 中学74%

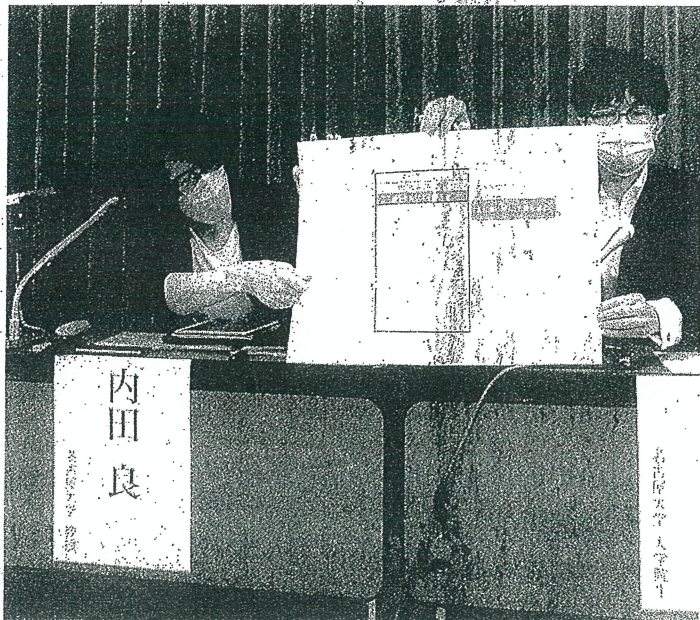
① 長時間労働が問題化している公立校教員の勤務実態について、名古屋大学院の内田良教授(教育社会学)らのグループが13日、小中学校教員に実施した独自調査の結果を公表した。時間外労働では、中学校教員の74・4%が「過労死ライン」を超えたほか、週40時間以上に達した小学校教員の3人に1人が管理職などに「勤務時間の書き換えを求められた」と答えた。内田教授は「長時間労働の影響は子どもに下りてくる。社会全体の問題だ」とした。

記録書き換えも要求

文部科学省が2016年度ウェブモニターを利用し調査を実施した教員勤務実態調査では、小学校で約3割、中学校で約6割の教員が、月80時間以上が目安の「過労死ライン」を超える残業をしていたことが分かっている。

内田教授らは、21年11月にウェブモニターを利用し調査を実施。公立小中学校でフルタイムで働く20〜50代の現場教員計924人から回答を得た。特定の1週間の出勤時刻や自宅で「持ち帰り仕事」をした時間数などを尋ねた。

調査結果によると、週の時間外労働が20時間以上だった教員は全体の66・9%で、過



長時間労働が問題化している教員の働き方について説明する名古屋大学院の内田良教授(左)ら—東京都千代田区の文部科学省で13日

間外労働が20時間以上だった教員は全体の66・9%で、過

② 労死ライン」を超えた計算になる。さらに中学校で18・1%、小学校では10・8%が、週40時間以上に及んだ。また小中学校とも約半数は勤務中の休憩時間が「ゼロ」と答えた。残業時間を少なく見せるため、管理職による勤務記録の書き換え要求が横行している実態も分かった。過去2年ほどの間、書類上の勤務記録を少なく書き換えるよう求められたことがあるかを尋ねたところ、全体の16・6%が「あ

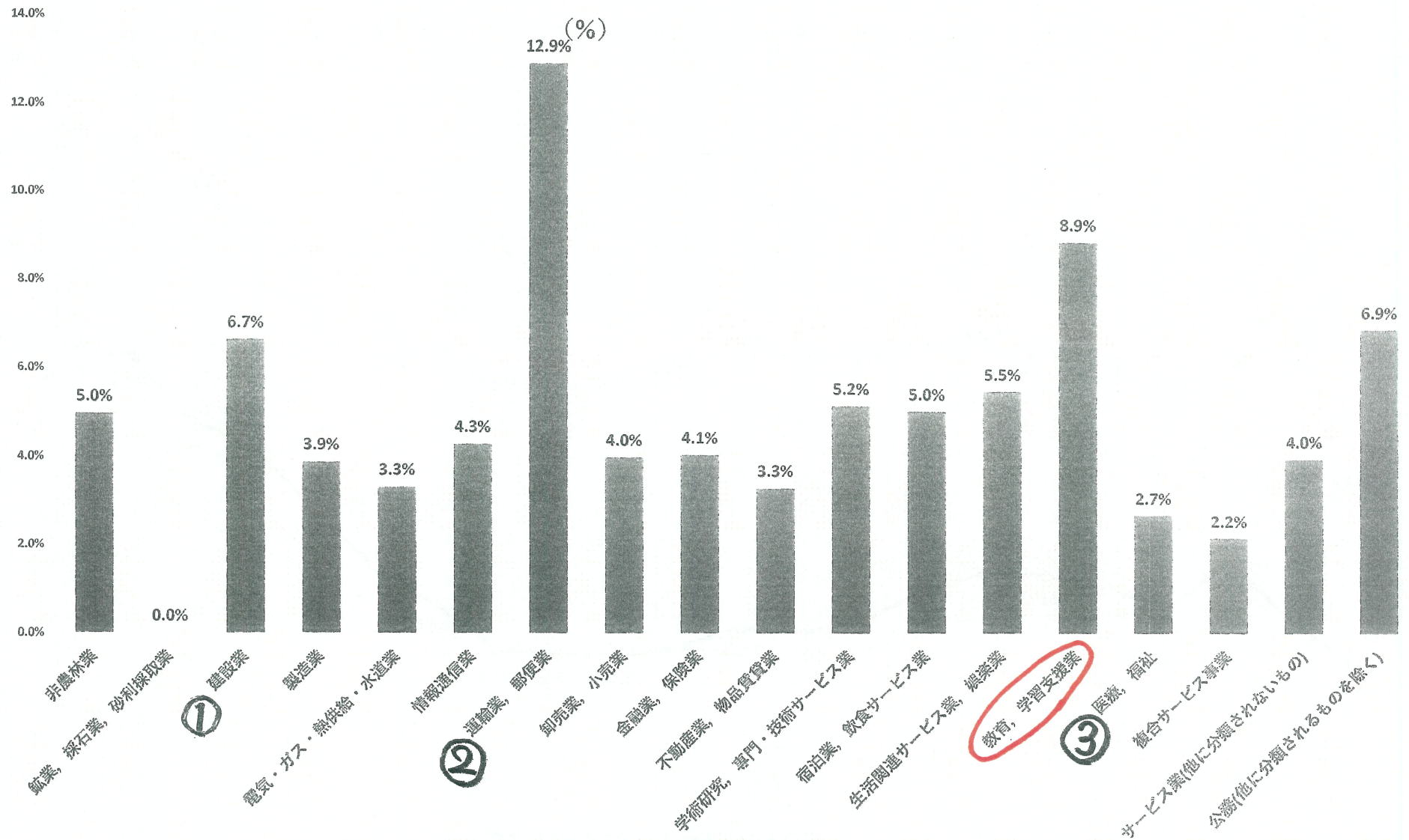
る」と回答。時間外労働が週40時間以上だった教員に限ると、小学校では32・7%、中学校では24・4%が要求を受けたと答えている。また、小学校教員は、43%が土日の勤務時間数を「正確に申告しない」と回答した。

労働意欲などを尋ねた項目では、残業が多いほど不安を抱えることも分かり、残業が週40時間以上の教員では、81・9%が「いじめを早期発見できているか不安だ」との質問にほぼ同意する回答を寄せ、70・1%が「準備不足のまま授業に臨んでいる」とした。

内田教授は、勤務記録が書き換えられる背景について、残業の上限を月45時間と定めた改正教職員給与特別措置法が19年に成立したことや、長時間勤務に伴う産業界との面談を避ける狙いなどがあると分析。「時間管理を厳しく言われるようになった分、持ち帰りの仕事も増えている。人を増やしたり、業務を削減して外部に任せたりしていかないといけない」と話した。

【李英浩、写真も】

月末1週間の就業時間が60時間以上の従業員の割合(産業別)2023年平均



2024年5月8日 厚生労働委員会 立憲民主党 堤かなめ
 出典 総務省統計局「労働力調査(基本集計)2023年平均結果」を基に
 堤かなめ事務所作成